

鳥類

鳥 類

● 概 説 ●

◆市内の鳥類相の特徴

本市には、ラムサール条約湿地の佐潟をはじめ、鳥屋野潟や福島潟といった大きな潟が存在するため、冬場には多くのガンカモ類が飛来し、越冬地としてこれらの潟を利用します。一方、海岸線に隣接する地域には、飛砂防止のために松林が帯状に連なり、林帯を形成しています。この林帯では春と秋の渡りの時期に観察される種数が多くなります。また、新津丘陵や角田山・多宝山といった森林環境が市街地の至近距離にあり、キバシリのような森林を好む種もごく希に記録されています。

新潟県の鳥類相の特徴のひとつとして、トキとライチョウの生息が挙げられていましたが、最後のトキ（愛称キン）が平成15年10月に死亡し、純国産トキは絶滅しました。現在は、中国から譲り受けたトキのペアによる人工繁殖が成功しており、また、トキの野生復帰に向けた取り組みとして平成20年9月に10羽のトキが試験放鳥されました。この試験放鳥されたトキは、日本海を超えて本土まで到達し、市内においてもねぐら入りした事例があります。

なお、「新潟市史 資料編12 自然 別冊」における新潟市鳥類目録によると、49科241種の鳥類が収録されています。また、現市域の全域を対象として既存文献等の資料収集・整理を本市が独自に行った結果からは、記録を確認できる種として約280種が見られます。これらは日本産鳥類74科542種の約半数に当たります。

◆調査・選定の概要

本書では、新潟県の選定種51種のうち、42種を選定種として掲載しています。選定種は、猛禽類や水鳥が多くを占めます。評価の結果、絶滅危惧Ⅰ類2種、絶滅危惧Ⅱ類9種、準絶滅危惧31種となりました。選定理由別の種数は、減少11種、環境悪化39種、希少34種です（複数の理由が重複している場合もあります）。

◆減少の原因

生息を脅かしている原因別の種数は、人の立入7種、森林の改変16種、草地の減少1種、水湿地の減少20種、河川の改変2種、農地の改変3種、観光開発2種、一般開発9種、農薬使用7種、水質汚濁1種、その他4種です（複数の原因が重複している場合もあります）。

繁殖地の環境改変や越冬地の環境悪化により、減少している種があります。

オジロワシ

タカ目 タカ科

Haliaeetus albicilla albicilla (Linnaeus)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧ⅠB類
-------	---------------	---------------	----------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄76~90cm, 雌86~98cm, 翼開長は199~228cm。体色は褐色, 風切羽は黒色である。頭部は黄褐色から白色があった個体もいる。尾は白色で, 嘴と脚は黄色である。主に大型魚や水鳥を捕食する。

【分布の状況】

市内 市内では, 福島潟や阿賀野川下流域などで確認されている。

その他 冬鳥として主に北海道や東北地方に渡来し, 中部日本海沿岸や琵琶湖に出現するものもいる。

【減少等の原因】

森林の改変, 水湿地の減少



撮影: 市域外
写真提供: 木下 徹

【特記事項】

天然記念物, 国内希少野生動植物種

鳥類
【選定種解説】

オオワシ

タカ目 タカ科

Haliaeetus pelagicus pelagicus (Pallas)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄88cm, 雌102cm, 翼開長は220~250cm。大きな黄色の嘴が特徴的であり, 額, 小雨覆, 尾羽は白色である。全体としては黒褐色で, 脚は黄色である。主に大型魚を捕食するが, 水鳥や中型哺乳類も捕食する。

【分布の状況】

市内 市内では, かつて福島潟や佐潟などで観察されたが, 最近5ヵ年間は殆ど確認されていない。

その他 冬鳥として主に北海道に渡来し, 少数は本州北部などで見られる。



撮影: 市域外
写真提供: 木下 徹

【減少等の原因】

森林の改変, 水湿地の減少

【特記事項】

天然記念物, 国内希少野生動植物種

オオヨシゴイ

コウノトリ目 サギ科

Ixobrychus eurhythmus (Swinhoe)

カテゴリー

新潟市
絶滅危惧Ⅱ類

新潟県
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は39cm, 翼開長は56cm。雄の体色は栗褐色で, 風切羽が黒褐色である。下面は淡灰色だが, 喉から胸にかけて1本の縦線がある。雌は背面の栗褐色に小白斑があり, 下面に縦斑がある。

【分布の状況】

市内 過去に旧新潟市で確認例があるが, 今回の市内現地調査では認められなかった。

その他 北海道, 中部地方以北の本州に希な夏鳥として渡来する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影：市域外
写真提供：菊地 直基
日本野鳥の会秋田県支部

ミゾゴイ

コウノトリ目 サギ科

Gorsachius goisagi (Temminck)

カテゴリー

新潟市
絶滅危惧Ⅱ類

新潟県
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は49cm, 翼開長は87cm。頭部は濃栗褐色で, 背は暗黒褐色である。下面は淡色でまばらな縦斑がある。嘴は黒色で, 目の周囲と目先は水色を呈する。

【分布の状況】

市内 新津地区や旧新潟市の海岸林などで確認例があるが, 今回の市内現地調査では認められなかった。

その他 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島に夏鳥として渡来・繁殖し, 西南日本では越冬するものもいる。県内では, 最近長岡市や上越地区で繁殖が確認されている。



撮影：市域内
写真提供：羽田 守

【減少等の原因】

森林の改変

シジュウカラガン

カモ目 カモ科

Branta canadensis leucopareia (Brandt)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧ⅠA類
-------	---------------	---------------	----------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は64cm, 翼開長は109cm。頭部から頸にかけて黒色で, 頬から喉にかけて白色斑がある。体色は灰褐色で, 上面は濃い。尾羽は黒色で, 上下尾筒は白色である。水田地帯でイネの落穂などを採餌する。

【分布の状況】

市内 市内では, 近年福島潟とその周辺で観察され, 平成21年には1群43羽の飛来例がある。

その他 北海道から関東地方北部まで観察記録がある。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影: 市域内
写真提供: 高辻 洋

【特記事項】

国内希少野生動植物種
複数あるシジュウカラガンの1亜種で, 野外では識別に要注意

鳥類
【選定種解説】

ハクガン

カモ目 カモ科

Anser caerulescens caerulescens (Linnaeus)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 情報不足
-------	---------------	---------------	-------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は67cm。成鳥は全身が白色で, 翼の先端部だけが黒い。嘴は淡紅色で足は橙紅色である。幼鳥は顔や背が灰褐色。潟や周辺の水田で落穂や水生植物などを採餌する。

【分布の状況】

市内 市内では, 福島潟や佐潟などの湖沼で確認されている。

その他 希な冬鳥として国内各地に渡来するが, 観察例は主に北海道や東北地方に偏っている。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影: 市域外
写真提供: 白井 康夫

サカツラガン

カモ目 カモ科

Anser cygnoides (Linnaeus)

カテゴリー

新潟市
絶滅危惧Ⅱ類

新潟県
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
情報不足

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は84cm, 翼開長は153cm。体色は黒赤褐色で, 上面は濃く, 下面は淡い。下尾筒は白色で, 嘴は黒色である。地上を歩きながら草の葉や実を食べる。

【分布の状況】

市内 これまで福島潟や佐潟などで確認記録がある。今回の市内現地調査では確認されなかったが, 平成21年には飛来が認められている。

その他 数の少ない冬鳥で, 主に九州から南西諸島に渡来する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影: 市域外
写真提供: 近藤 健一郎

オオタカ

タカ目 タカ科

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert)

カテゴリー

新潟市
絶滅危惧Ⅱ類

新潟県
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
準絶滅危惧

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄約50cm, 雌約56cm, 翼開長は105~130cm。頭部, 背, 尾, 翼上面が青灰黒色で, 眉斑は白色である。胸, 腹の下面は白色で, 灰黒色の横斑が全体にある。雌の横斑は雄よりも濃い。

【分布の状況】

市内 市内では, 留鳥として少数が海岸林などで繁殖している。秋から冬の間は, 餌を求めてしばしば湖沼や河川流域にも出現する。

その他 北海道から九州まで広く国内に生息し, 長距離を移動する例もある。

【減少等の原因】

人の立入, 森林の改変

【特記事項】

国内希少野生動植物種

人による繁殖妨害に要注意



撮影: 市域内
写真提供: 本間 隆平

ヒクイナ

ツル目 クイナ科

Porzana fusca erythrothorax (Temminch & Schlegel)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は21～23cm，翼開長は37cm。緋色のクイナで顔や胸が赤く，体の上面は緑褐色。湿地の草むらを好み，人前に姿を現すことはごく少ない。

【分布の状況】

市内 市内での生息確認例はごく少ない。海岸林内の湿地で繁殖したこともあるが，平成18～20年度の市内現地調査では生息が認められなかった。

その他 国内では主に西南日本に生息している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用



撮影：市域内
写真提供：羽田 守

鳥類
【選定種解説】

チゴモズ

スズメ目 モズ科

Lanius tigrinus Drapiez

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧ⅠA類
-------	---------------	---------------	----------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は約18cm。頭部は青灰色で，翼は黒褐色で，下面は白色である。食性はモズと同じで，昆虫などを捕らえる。

【分布の状況】

市内 市内では，海岸林とその周辺で確認されている。西新潟海岸には例年5月下旬に渡来し，年によって公園や防風林でごく少数が繁殖する。

その他 夏鳥として本州中部以北に渡来・繁殖する。

【減少等の原因】

森林の改変，農薬使用



撮影：市域外
写真提供：小椋 志郎

アカモズ

スズメ目 モズ科

Lanius cristatus superciliosus Lathan

カテゴリー

新潟市
絶滅危惧Ⅱ類

新潟県
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は18～20cm。体色は赤褐色で，額から眉斑は白色である。翼は黒褐色で，茶褐色の羽縁である。食性はモズと同じで，昆虫などを捕らえる。

【分布の状況】

市内 市内では，かつて海岸林やその周辺に生息していた。今回の市内現地調査では，平成15年に1つの観察例が得られたが，それ以外は生息が確認されなかった。

その他 主に北日本に夏鳥として渡来し，繁殖する。

【減少等の原因】

一般開発，その他



撮影：市域内
写真提供：小椋 志郎

ウミウ

ペリカン目 ウ科

Phalacrocorax capillatus (Temminck & Schlegel)

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
—

【選定理由】

減少

【形態など】

体長は84～92cm，翼開長は約150cm。体色は艶のある黒色で，下アゴの基部は黄色である。若い個体は全身褐色で，胸や腹が白い。繁殖期の成鳥は頭部に白い糸状の飾り羽が出る。

【分布の状況】

市内 市内では，主に冬季に沿岸部や河口などで見られ，しばしば護岸堤や漁港で認められる。

その他 全国各地の海岸や島で繁殖し，本県では佐渡島や粟島に小さな繁殖コロニーがある。

【減少等の原因】

その他



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

チュウサギ

コウノトリ目 サギ科

Egretta intermedia intermedia (Wagler)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は65～72cm, 翼開長は105～115cm。体色は白色で, 夏季には飾り羽がつく。嘴は黄色で, 先端は黒色である。繁殖期は集団でコロニーを形成する。

【分布の状況】

市内 夏鳥として渡来し, 市内では阿賀野川や信濃川の下流部中州などで繁殖する。水田のほか, 潟や川で採餌し, 田園地帯では観察例も多い。

その他 西南日本や沖縄県では, 越冬する個体もある。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 農地の改変



撮影: 市域内
写真提供: 木下 徹

鳥類
【選定種解説】

コクガン

カモ目 カモ科

Branta bernicla orientalis Tugarinov

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は55～66cm, 翼開長は115～125cm。頭部, 背中, 胸は黒褐色で, 下腹, 脇は白色である。喉に白色の首輪または白斑がある。常に海上で生活し, 水中の植物質を採餌する。

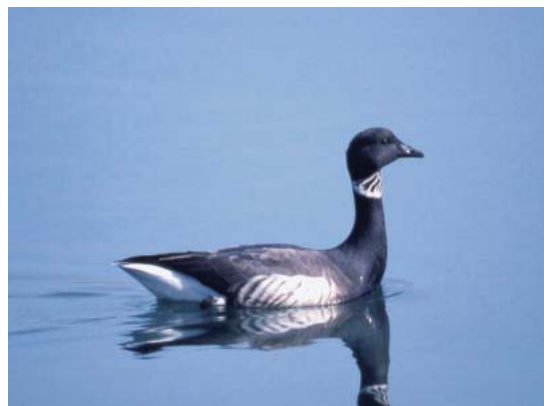
【分布の状況】

市内 市内では, 平成16年に移動途中の個体が1例観察されただけで, その後の現地調査でも生息は確認されなかった。

その他 冬鳥で, 北海道や本州北部の沿岸海域に渡来し, 新潟県ではごく少ない。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影: 市域外
写真提供: 千葉 晃

【特記事項】

国の天然記念物

マガン

カモ目 カモ科

Anser albifrons frontalis Baird

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は65～86cm, 翼開長は135～165cm。体色は暗褐色で, 背に淡褐色の横斑がある。嘴基部から額にかけて白色である。主に, イネの落穂やマコモなどの植物質を採餌する。

【分布の状況】

市内 冬鳥として渡来し, 市内では主に福島潟でまとまった群れが見られ, ここ以外では少ない。潟をめぐりに利用し, 周辺の水田で採餌を行う。近年増加傾向にある。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 一般開発



撮影: 市内内
写真提供: 千葉 晃

【特記事項】

天然記念物

ヒシクイ

カモ目 カモ科

Anser fabalis (Latham)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は約83cm, 翼開長は約160cm。体色は暗褐色で, 頸から上は黒褐色である。嘴は黒色で, 先端部が黄色である。水田地帯や湿地で歩きながら草の実などを採餌する。

【分布の状況】

市内 冬鳥として渡来し, 潟や水田で生活する。市内では主に福島潟でまとまった群れが見られ, その他の地域では少ない。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 一般開発



撮影: 市内内
写真提供: 高辻 洋

【特記事項】

天然記念物。日本に渡来するものは, 主に亜種ヒシクイ (*A. f. serratirostris*) と亜種オオヒシクイ (*A. f. middendorffii*) で, 福島潟に飛来するのはほとんどが後者である。

トモエガモ

カモ目 カモ科

Anas formosa Georgi

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は39~43cm, 翼開長は65~75cm。雄は顔に横白色と緑黒色のともえ形の斑がある。雌は褐色で, コガモなど他種の雌と酷似する。

【分布の状況】

市内 市内では, 冬鳥として福島潟や佐潟などで確認されている。移動期には, 年によってかなり大きな群れが観察されることがある。

その他 冬季, 本州, 四国, 九州で見られる。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影：市域外
写真提供：本間 隆平

鳥類
【選定種解説】

ヨシガモ

カモ目 カモ科

Anas falcata Georgi

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は46~54cm, 翼開長は78~82cm。雄は頭部が赤茶褐色で, 眼から後ろが光沢のある緑色である。喉は白色で, 下に黒色の線がある。雌は茶色のまだら模様である。

【分布の状況】

市内 冬鳥として渡来し, 市内では主に福島潟で少数認められ, その他の湖沼ではあまり見られない。

その他 本州, 四国及び九州では冬鳥で, 北海道の北部や東部では少数が繁殖する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影：市域外
写真提供：本間 隆平

シノリガモ

カモ目 カモ科

Histrionicus histrionicus pacificus Brooks

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
地域個体群

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は38~45cm, 翼開長は63~69cm。雄の体色は黒色がかった青色で, 体中に長短大小の白斑がある。雌の体色は黒褐色で, 腹は淡色である。浅海に潜って, 動物質の餌をとる。

【分布の状況】

市内 冬鳥として岩礁海岸に渡来するが, 市内では平成16年度の現地調査において1羽が確認されただけ。その後の調査でも生息は確認されていない。

その他 九州以北に冬鳥として渡来する。

【減少等の原因】

一般開発



撮影: 市域外
写真提供: 千葉 晃

ホオジロガモ

カモ目 カモ科

Bucephala clangula clangula (Linnaeus)

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
—

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は42~50cm, 翼開長は65~80cm。雄は頭部が光沢のある黒緑色で, 嘴の基部に白斑がある。雌は頭部が暗褐色。潜水して貝類や甲殻類などの小動物を捕食する。

【分布の状況】

市内 冬鳥として渡来し, 市内では海岸や河口などごく希に観察される。しかし, 今回の市内現地調査では, 生息確認の記録は得られなかった。

その他 全国各地に渡来する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影: 市域外
写真提供: 近藤 健一郎

ミサゴ

タカ目 タカ科

Pandion haliaëtus haliaëtus (Linnaeus)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄約55cm, 雌63cm, 翼開長は雄約157cm, 雌約174cm。雄は背と翼の上面が暗褐色で, 下面は白色である。後頭に短い冠羽がある。雌は胸の褐色の帯が太くて濃い。

【分布の状況】

市内 留鳥として周年観察され, 市内では水辺(湖沼, 河川, 海岸, 港湾)に広く出現する。魚食性で飛びながら餌を探し, 山地の大木などに営巣する。

【減少等の原因】

森林の改変, 河川の改変, 農薬使用



撮影: 市域内
写真提供: 木下 徹

鳥類
【選定種解説】

ハチクマ

タカ目 タカ科

Pernis apivorus orientalis Taczanowski

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄約57cm, 雌約61cm, 翼開長は121~135cm。雄は尾羽の太い横帯が特徴である。雌には尾羽に太い横帯がない。ハチの幼虫やさなぎを好んで食べる。

【分布の状況】

市内 夏鳥として低山に渡来し, 市内では弥彦山麓などで見られる。渡りの頃は, 平地上空を通過する個体もいる。

その他 広く北海道, 本州, 四国, 九州北部に渡来し, 繁殖する。

【減少等の原因】

森林の改変, 一般開発



撮影: 市域内
写真提供: 木下 徹

ツミ

タカ目 タカ科

Accipiter gularis gularis (Temminck & Schlegel)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

小型のタカで、体長は雄約27cm、雌約30cm。雄は頭部から翼上面と尾が灰青色で、下面は白色である。雌は下面に黒褐色の横斑が多数ある。主に小鳥を捕食し、小型のネズミや昆虫もとる。

【分布の状況】

市内 生息に関する情報はごく少ない。市内では移動中とみられる個体が角田山や海岸林などで確認されている。かつて西新潟の海岸林で繁殖したこともあるが、最近では認められていない。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域外
写真提供：丸山 和則

ハイタカ

タカ目 タカ科

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

ツミより一回り大きい。顔の眉斑はオオタカよりやや不明瞭で、下面には赤褐色味のある横斑がある。雌は灰黒褐色で下面が白っぽく、黒褐色の横斑が全体にある。小鳥やネズミなどを捕食する。

【分布の状況】

市内 市内では、山林、海岸林、湖沼などで確認されており、非繁殖期の観察例が角田山や福島潟などである。

その他 本州以北で繁殖し、冬季は暖地へ移動する。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域内
写真提供：小川 龍司

チュウヒ

タカ目 タカ科

Circus spilonotus spilonotus Kaup

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧ⅠB類
-------	--------------	--------------	----------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄約48cm, 雌58cm。雄は色彩変異が大きく, 胸は灰白色で茶褐色の縦斑がある場合と, ほとんどない場合がある。雌は雄より暗色で, 褐色味がやや強い。翼を浅いV字状に広げ, 飛びながら獲物を探す。

【分布の状況】

市内 市内には一般に冬鳥として渡来し, 湖沼や河川流域など広い湿生草地のある環境に棲み, 時には山麓にも出現する。福島潟では観察例が多い。

その他 北海道から本州中部以北で繁殖する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 農薬使用

【特記事項】

新潟県では, 新潟市佐潟で繁殖した例がある。



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

鳥類
【選定種解説】

ハヤブサ

タカ目 ハヤブサ科

Falco peregrinus japonensis Gmelin

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄38~45cm, 雌46~51cm, 翼開長は84~120cm。雄は頭から背, 翼の上面が青黒色で, 下面に白っぽく細かい横斑がある。頬に髭状の斑がある。雌は雄よりも体長が大きく, 下面の横斑も雄よりも太く明瞭である。ハトやカモやウサギなどを捕食する。

【分布の状況】

市内 留鳥で, 周年にわたって広く市内で確認されている。繁殖期は主に市内西部の海岸部で, また, 非繁殖期は福島潟周辺や西新潟の田園地域での観察頻度が高い。

その他 全国に広く分布し, 北海道や東北沿岸で繁殖するものが多い。

【減少等の原因】

人の立入, 観光開発,
一般開発, 農薬使用

【特記事項】

国内希少野生動植物種
近年, 建築物高所への営巣が知られるようになった。



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

ヘラシギ

チドリ目 シギ科

Eurynorhynchus bygmeus (Linnaeus)

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
絶滅危惧ⅠA類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は15cm。冬羽は背側が灰色と白色のまだら模様で、腹面は白い。夏羽は頭や背などが赤褐色のまだら模様になる。嘴先端がヘラ状に広がり、これを左右に振りながら水中や泥中の餌をとる。

【分布の状況】

市内 市内では、過去に潟東地区、巻地区で確認例があるが、今回の市内現地調査では生息が確認できなかった。

その他 全国的にも希少な旅鳥で、生息地は北海道から沖縄県までの沿岸域。

【減少等の原因】

人の立入, 水湿地の減少



撮影：市域内
写真提供：藤田 正明

アカアシシギ

チドリ目 シギ科

Tringa totanus ussuriensis Buturlin

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は28cm, 翼開長は51cm。夏羽は頭・頸, 背側が灰褐色で黒い縦斑があり, 肩羽は灰褐色で黒と黄褐色の斑がある。次列風切羽と内側初列風切羽の先半分が白色である。冬羽は上面が褐色で, 羽縁は淡色である。砂泥地などで水生昆虫を捕食する。

【分布の状況】

市内 希少な旅鳥で, かつて巻地区の海浜で観察されたことがある。今回の市内現地調査でも, 新津地区の水田で1羽が観察されている。

その他 国内では春と秋の移動時期に見られ, 九州や沖縄県を通過するものが比較的多い。

【減少等の原因】

人の立入, 水湿地の減少



撮影：市域外
写真提供：本間 隆平

ホウロクシギ

チドリ目 シギ科

Numenius madagascariensis (Linnaeus)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は53～66cm, 翼開長は110cm。大きく下に湾曲した嘴を持ち, 長さは頭頂の3倍程度である。体色は淡褐色で, 全体に黒褐色の斑がある。干潟でカニなどを捕食する。

【分布の状況】

市内 旅鳥で, 市内では近年, 四ツ郷屋地区の海浜や阿賀野川河口などで確認されている。

その他 日本各地の沿岸部を通過し, 本州中部以南では少数が越冬する。

【減少等の原因】

人の立入, 水湿地の減少



撮影：市域外
写真提供：千葉 晃

鳥類
【選定種解説】

オオジシギ

チドリ目 シギ科

Gallinago hardwickii (Gray)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は28～33cm, 翼開長は48～54cm。タシギより少し大きく, タシギに見られる次列風切後端部の白帯はない。尾羽は16から18枚である。水田, 川岸などで小動物を捕食する。

【分布の状況】

市内 夏鳥で, 市内では主に春と秋に河川流域や水田で確認されている。かつて阿賀野川河口西岸や北部海浜の草地で少数が繁殖していたが, 今回の市内現地調査では繁殖期の生息は認められなかった。

その他 北海道から本州中部地方に夏鳥として渡来・繁殖し, 豪州で越夏する。



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

【減少等の原因】

人の立入, 農地の改変, 一般開発

セイタカシギ

チドリ目 セイタカシギ科

Himantopus himantopus himantopus (Linnaeus)

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は32~35cm, 翼開長は48~54cm。雄の夏羽は頭頂から背にかけて黒く, 嘴も黒色である。それ以外は白色で, 脚は桃色である。冬羽は頭頂の黒色が褐色味を帯びる。雌の頭頂は白色で, 背や翼は褐色味を帯びた黒色である。

【分布の状況】

市内 市内では, 主に福島潟とその周辺の水田で観察され, 佐潟にも出現したことがある。

その他 日本全土に分布し, 東京湾周辺や愛知県の一部では繁殖例が報告されている。



撮影: 市域外
写真提供: 本間 隆平

【減少等の原因】

水湿地の減少

ツバメチドリ

チドリ目 ツバメチドリ科

Glareola maldivarum Forster

カテゴリー

新潟市
準絶滅危惧

新潟県
準絶滅危惧

環境省
絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は26~27cm, 翼開長は56~64cm。夏羽は喉が黄白色で, 黒い線に囲まれる。下面は赤栗色で, 風切羽は黒色である。冬羽は喉が淡褐色で, 周囲の黒線は不明瞭である。

【分布の状況】

市内 過去に阿賀野川河口, 福島潟, 鳥屋野潟などで観察例があったものの, 今回の市内現地調査では確認されなかった。

その他 本種は旅鳥または迷鳥として扱われており, 福岡県, 宮崎県, 静岡県, 愛知県で繁殖例がある。



撮影: 市内
写真提供: 千葉 晃

【減少等の原因】

水湿地の減少

コアジサシ

チドリ目 カモメ科

Sterna albifrons sinensis Gmelin

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は22～28cm。スマートな体形で翼や尾が細長く，夏羽では白い額と黒い頭部の対比が明瞭である。冬羽では白色部が頭頂まで広がり，黄色の嘴も暗色に変わる。

【分布の状況】

市内 市内では，夏季に河川，湖沼及び海岸などで観察され，河口や中洲の広い砂礫地に集団で営巣する。また，造成地で繁殖することもある。

その他 本州以南に夏鳥として渡来し，冬季は豪州などで越夏する。

【減少等の原因】

人の立入，河川の改変，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

【特記事項】

国内希少野生動植物種

鳥類
【選定種解説】

コノハズク

フクロウ目 フクロウ科

Otus scops japonicus Temminck & Schlegel

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，希少

【形態など】

体長は20cm。日本産フクロウ類中最も小型な種で，灰褐色の体色に黄色の虹彩が特徴である。夜行性で昆虫を主食とするが，小型爬虫類や小型哺乳類も捕食する。

【分布の状況】

市内 夜行性のため，生息に関する情報はごく少ない。夏鳥で，移動期の春と秋に市内の海岸林など緑地帯を通過しているものとみられる。

その他 北海道以南から九州にかけて分布し，山林で繁殖する。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域内
写真提供：木下 徹

オオコノハズク

フクロウ目 フクロウ科

Otus lempiji semitorques Temminck & Schlegel

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

体長は23～25cm。コノハズクによく似ており、体色は灰褐色で、全身に枯れ草模様がある。体が少し大きく、足に羽毛がある点で区別される。夜行性で、小鳥や小型哺乳類などを捕食する。

【分布の状況】

市内 生息に関する情報はごく少なく、平成18～20年度の市内現地調査でも確認情報は得られなかった。しかし、市内の海岸林では例年春と秋に少数が移動している様子がわかっている。

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発



撮影：市域外
写真提供：近藤 敬一

アオバズク

フクロウ目 フクロウ科

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は27～31cm。中型のフクロウ類。体色は黒褐色で、尾はやや長い。眼は黄色で、白色の腹部には褐色の縦斑が多数ある。昆虫類を主食し、カエルや小鳥なども捕食する。

【分布の状況】

市内 生息に関する情報は少ない。夏鳥で、市内では主に初夏と秋に海岸林などで確認されている。また、神社の社叢や屋敷林に立ち寄ることもある。

その他 九州以北に夏鳥として渡来し、繁殖する。



撮影：市内
写真提供：木下 徹

【減少等の原因】

森林の改変，農薬使用

ヨタカ

ヨタカ目 ヨタカ科

Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少, 環境悪化

【形態など】

体長は29cm, 翼開長は61cm。全身黒褐色の鳥で, 嘴が小さく目が大きいのが特徴。肩, 眼下, 喉, 翼先などに白斑がある。木の枝に平行にとまり, 昼はじっとしていることが多い。夜行性で, 飛びながら蛾などの昆虫を捕食する。

【分布の状況】

市内 市内における本種の生息情報はごく少ない。今回の現地調査では新津地区の山林で確認例があった(平成18年と平成20年に1例ずつ)。

その他 九州以北に夏鳥として渡来し, 山林で繁殖する。



撮影: 市域外
写真提供: 本間 隆平

【減少等の原因】

森林の改変, 農薬使用

鳥類
【選定種解説】

サンショウクイ

スズメ目 サンショウクイ科

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は20cm, 翼開長は28cm。雄は背が灰色で, 後頭部や過眼線は黒色である。下面は全体的に白色で, 脇は灰色である。雌の頭部は灰色で, 額の白色部も狭い。

【分布の状況】

市内 夏鳥で, 市内では初夏の頃に海岸林や山地などの緑地帯で観察されている。生息確認情報は秋葉区の低山帯や角田・弥彦山麓に集中している。夏の終わりに集団をなして渡り, 阿賀野川流域の河畔林でも観察例がある。

その他 本州, 四国, 九州, 沖縄県, 南西諸島の西表島で繁殖する。

【減少等の原因】

森林の改変, その他



撮影: 市域外
写真提供: 高辻 洋

コサメビタキ

スズメ目 ヒタキ科

Muscicapa dauurica dauurica Pallas

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は13cm，翼開長は21cm。体色は上面が淡灰褐色で，下面の喉・胸・腹が白色である。眼の周囲も白色を呈す。主に昆虫類を捕食する。

【分布の状況】

市内 夏鳥として渡来し，市内では海岸林や緑地帯などで確認されている。角田・弥彦山麓や新津丘陵などの山林で生息確認記録があるものの，繁殖を示す情報は得られなかった。

その他 九州以北に夏鳥として渡来し，繁殖する。



撮影：市域外
写真提供：藤田 正明

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発

サンコウチョウ

スズメ目 カササギヒタキ科

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata (Eyton)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は雄45cm，雌17cm，翼開長は23～30cm。眼の周囲と嘴がコバルトブルーで，頭部から胸部・脇が黒紫色である。背面は紅紫色で，下面は白い。昆虫類を捕食する。

【分布の状況】

市内 夏鳥として渡来し，市内では山林や海岸林などで確認されている。市内における生息記録は新津丘陵や角田・弥彦山麓に集中し，少数は海岸林でも観察されている。

その他 国内では，四国，九州，沖縄県，屋久島などで繁殖する。

【減少等の原因】

森林の改変，その他



撮影：市域外
写真提供：伊平 清士

コジュリン

スズメ目 ホオジロ科

Emberiza yessoensis yessoensis (Swinhoe)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は15cm, 翼開長は22cm。夏羽の雄は黒頭巾を被ったように頭部が黒い。冬羽の雄は雌に似て頭部が褐色となり, 顎に暗色の線がでる。繁殖期は昆虫の幼虫やクモ類を捕り, 冬季は雑草の種子などをついばむ。

【分布の状況】

市内 市内では, 春から秋にかけて観察され, その生息地はほぼ福島潟に限られる。湖岸の湿生草地を好み, ヨシ原やその周辺の休耕田などに棲み, 繁殖している。

その他 国内での分布は局地的で, 青森県, 秋田県, 茨城県, 熊本県などである。



撮影：市域内
写真提供：千葉 晃

【減少等の原因】

草地の減少

鳥類
【選定種解説】

ノジコ

スズメ目 ホオジロ科

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

体長は14cm, 翼開長は21cm。背面は灰緑色で, 下面は黄色である。眼の周囲の白色と2本の白色翼帯が特徴である。繁殖期は昆虫の幼虫などを捕食する。

【分布の状況】

市内 市内では, 移動の途中と思われる個体が湿地の草むら, 河畔林, 山麓のブッシュなどで観察されている。

その他 本州中部以北に夏鳥として渡来する。

【減少等の原因】

観光開発



撮影：市域内
写真提供：木下 徹

参考文献（鳥類）

新潟市史編さん自然部会，1991．新潟市史 資料編12 自然．新潟市．

日本野鳥の会新潟県支部，1997．雪国の鳥を訪ねて．新潟日報事業社．

日本鳥類目録編集委員会，2000．日本鳥類目録 改訂第6版．日本鳥学会．

新潟県，2001．レッドデータブックにいがた．新潟県環境生活部環境企画課．

環境省，2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物．財団法人自然環境研究センター．

千葉 晃・本間隆平，2007．ポケットガイド 新潟県の野鳥180種．新潟日報事業社．